

新規発行	2019.7.16	N	北原
変更内容	発行日	No	担当

車体解体マニュアル

医療防疫車（含むレントゲン装置搭載車）

コーワテック株式会社

TEL：0467-72-5081（湘南事業所）

部長	課長	担当
松田	北 19.7.16 原	

作成日 令和元年7月16日発行

目次

1. はじめに.....	3
2. 解体時の留意事項.....	3
3. 解体手順及び車両装備品一覧.....	4
4. レントゲン装置の取り外し.....	4
5. 車両装備品の取り外し.....	5
6. 外装部品の取り外し.....	5
7. 内装部品及び内板の取り外し.....	5
8. 車体外板の取り外し.....	7
9. 車体骨格の解体.....	7

1. はじめに

- 1.1. 本マニュアルは検診車の解体に際し、使用済み架装部位の処理を行うための手順を記載したものです。
- 1.2. 本マニュアルに記載のない製品または内容につきましては、製品に記載されたメーカーへ直接お問い合わせのうえ適切な処理を行ってください。
- 1.3. 本マニュアルに記載する内容は予告なく改訂する場合があります。予めご了承ください。

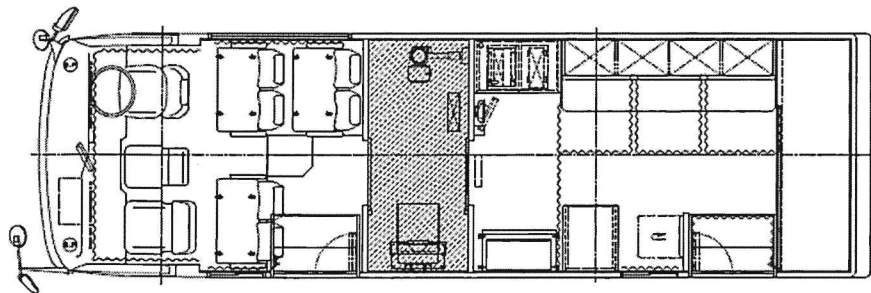
2. 解体時の留意事項

- 2.1. 弊社の車体は鉄製骨格及び鋼板等で構成されており各部は溶接または螺子類にて結合されております。解体に際し溶接部は切断機やサンダー等、ボルトやビスはスパナやドライバー等、リベットについてはドリルなど目的に合った専用工具を用いて作業を行ってください。
- 2.2. 解体した部品は鉄・非鉄金属・ゴム類・樹脂・ガラス・配線材等材質別に分別し適正な処理を行ってください。
- 2.3. レントゲン撮影室の内壁及び床面には、X線防護のため 0.5mm～2.5mm 厚の鉛板が挿入されております。また、撮影室仕切壁及び出入口扉のガラスについては含鉛ガラスを使用しております。解体の際は必ずそれらを分離したうえで適正な処理を行ってください。
- 2.4. 取り外した螺子類についても材質別に分別して適正な処理を行ってください。

注意！

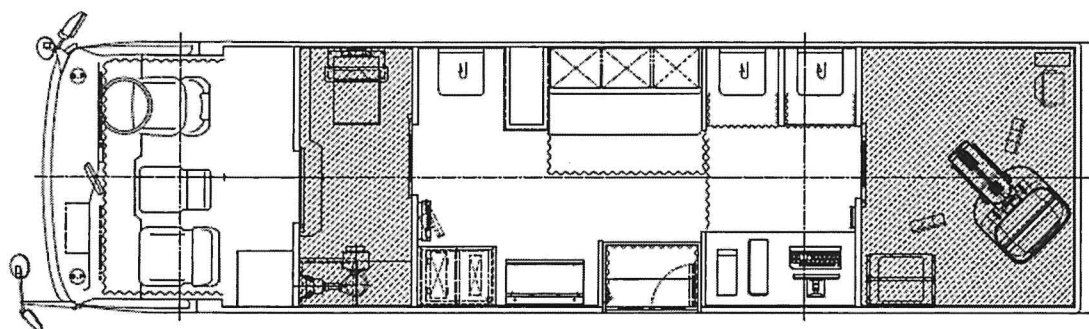
鉛は環境負荷物質として特定物質に指定されております。
螺子類には表面処理として六価クロムが含有されている場合があります。

胸部検診車架装例（ハッチング部が主な鉛使用部位）



※本図は架装一例であり、レイアウトは異なる場合があります。

胸部乳房検診車架装例（ハッチング部が主な鉛使用部位）



※本図は架装一例であり、レイアウトは異なる場合があります。

3. 解体手順及び車両装備品一覧

- 3.1. 架装ベース車のシャシ関係及び架装部品については、ボデーより取り外した後、各シャシメーカー・医療器メーカー・部品メーカーの定めた指示に基づき解体・廃棄を行ってください。
- 3.2. 車輛解体の前に以下の物質の抜き取りを行い、それぞれ定められた方法で適切に処理を行ってください。
- 3.3. 燃料関係（車両用、発電機用他）
- 3.4. 油脂関係（ブレーキ、クラッチ、パワステ、ミッション、デフアレンシャル他）
- 3.5. 冷却水（車両用、発電機用他）
- 3.6. クーラー冷媒（車両用、バスクーラー、ルームエアコン等）

【車両装備品一覧】

レントゲン装置	発動発電機	バスクーラー	予熱式ヒーター
ルームエアコン	安定ジャッキ	室内灯	充電器
自動扉開閉器	天井換気扇	定員座席	待合座席
家具関係	コードリール	アースリール	配電盤
監視カメラ	天幕	カーテン	カーペット

4. レントゲン装置の取り外し

レントゲン装置の取り外しは、必ず医療機器メーカーへ依頼をしてください。

注意！

レントゲン装置には、環境負荷物質が使用されております。

5. 車両装備品の取り外し

- 5.1. 前々項リストに記載されている機器及び部品を取り外してください。取付はボルトまたはビス固定となっており、取外し後の廃棄方法につきましては各部品メーカーにお問い合わせください。
- 5.2. クーラー及びルームエアコンを取り外す際は、事前に冷媒の抜き取り作業を実施してください。
- 5.3. ヒーターを取り外す際は、事前に冷却水の抜き取り作業を実施してください。
- 5.4. 油圧安定ジャッキを取り外す際は、事前に作動油の抜き取り作業を実施してください。

6. 外装部品の取り外し

- 6.1. 灯火類（ヘッドランプ、フォグラмп、サイドターンランプ、リヤコンビネーションランプ、バックランプ、路肩灯、マーカーランプ）の取り外し。
- 6.2. フロントガラス・リヤガラス・側面固定窓・サッシの取り外し。
サッシについてはガラスと枠に分解してください。
- 6.3. ワイパー・サイドミラーの取り外し。
- 6.4. 運転席ドア・助手席ドア・後面扉・側面扉の取り外し。
ドア本体やガラス・ゴム等は分解してください。
- 6.5. フロントフードの取り外し。
樹脂と鉄に分解してください。
- 6.6. スカート扉の取り外し。
ラッチ式で無い固定扉についてはスカート下端裏側にてボルト固定されております。
- 6.7. 燃料タンク・コードリール・乗降用引出ステップ等床下部品の取り外し。
タンク内部の残燃料には十分注意してください。また引出ステップは非鉄金属も含まれるため分解してください。
- 6.8. 天幕及び天幕カバー・手摺等の取り外し。
- 6.9. フェンダートリム及びモール等の取り外し。（挟み込み接着）

7. 内装部品及び内板の取り外し

- 7.1. カーテンやカーペット等室内装飾品の取り外し。
- 7.2. 定員座席・待合席（ベンチシート、跳ね上げ席）の取り外し。
フレームとクッション及び表皮など素材別で分解してください。
- 7.3. 木製家具の取り外し。
家具は隠しビスを外した後バール等を用い解体ください。

7.4. 間仕切り窓ガラスの取り外し

ガラスは抑え枠にて固定されております。(ビス固定)

含鉛ガラスのため他のガラスとは別処理してください。

7.5. 間仕切り自動扉開閉器の取り外し。

7.6. 間仕切り扉の取り外し。

扉には含鉛ガラス、内部には鉛板や木材等が挿入されておりますので分解のうえ処理してください。

7.7. 配電盤・充電器・ドアスイッチボックス・室内灯・天井換気扇・監視モニター・コンセント等室内電装部品の取り外し。

電装部品には、環境負荷物質が使用されている場合があります。

7.8. クーラーダクト及びルームエアコン取り外し。

ダクトはビス及びスポット溶接にて取付されておりますのでサンダーやバール等で解体してください。

7.9. クーラー及びルームエアコン用冷媒配管及びドレンホースの取り外し。

7.10. 内板及び間仕切り内板の取り外し。

内板には鋼板または合板が使用されております。

鋼板仕上げの場合（ビスまたはスポット溶接及び接着による取付。）

スポット溶接部はナゲット（打点）径より大きいキリで穴を開け剥がします。

スポット溶接を剥がした後はサンダーやバール等で解体してください。

合板仕上げの場合（ビス及びシール材にて取付）

合板の継ぎ目に使用されているモール等を取外し、バール等で解体してください。尚、撮影室内板及びその間仕切り壁にはX線防護の為鉛板を挟んでおりますので必ず分解したうえ処理してください。

7.11. 壁内断熱材及び配線材の抜き取り。

7.12. 間仕切り骨格の解体。（ビスまたは溶接にて結合。）

サンダーやタガネ・ハンマー等で周囲の溶接部を外し、切断して解体ください。

7.13. エンジン・ミッション点検蓋の取り外し。

上面のビニル床シート・枠材・ベニヤ板・断熱材に分解し処理してください。

7.14. 床ベニヤの解体（ビス・接着固定）

7.15. 周囲の縁材やシーリングを取り去り上面に接着されているビニル床シートを剥がした後、ビスを外しバール等でベニヤを剥がし解体ください。

8. 車体外板の取り外し

- 8.1. 天井外板の取り外し（天井外板はスポット溶接またはリベットにて車体骨格と結合されております。）
- 8.2. 側面外板の取り外し（側面外板は溶接・スポット溶接またはシール材等にて車体骨格と結合されております。）
- 8.3. スポット溶接を剥がします。（剥がし方については内板同様です。）
- 8.4. 溶接部はサンダーで削り、取り外します。
- 8.5. 外板は溶接のほかシール材で接着されておりますので室内側よりカッター等で切り離してください。
- 8.6. バール等で外板を剥がし解体ください。

9. 車体骨格の解体

- 9.1. 車体骨格は前面（ベースシャシのキャビンが残る場合は除く）・後面・側面・天面・床面と各パネル毎の構成となっており、それらは溶接にて結合され床面がシャシフレームとボルトまたは溶接にて固定されております。
- 9.2. 解体の際は、各パネルの溶接結合部をサンダーにて削り、取り外すかまたは切断機にて結合付近の骨格を切断しパネル毎に取り外してください。

注意！

各パネル解体の際は必ず当該パネルをクレーン等で吊り上げた状態で行ってください。突然パネルが落下する恐れがあり大変危険です。

（クレーンの吊り上げ能力は500kg以上必要です。）

- 9.3. パネル単体になりましたら廃棄可能な大きさに切断し、処理してください。
- 9.4. 床面の取り外しはボルト締結部を外したうえ溶接部はサンダーにて削り、取り外すかまたは切断機にて切り離してください。
- 9.5. 床面とシャシフレームとの間に樹脂材が挟んである場合は分別し、処理してください。